

丹沢／大山
学 術 調 査 報 告 書

1964

神 奈 川 県



堂平附近の森林

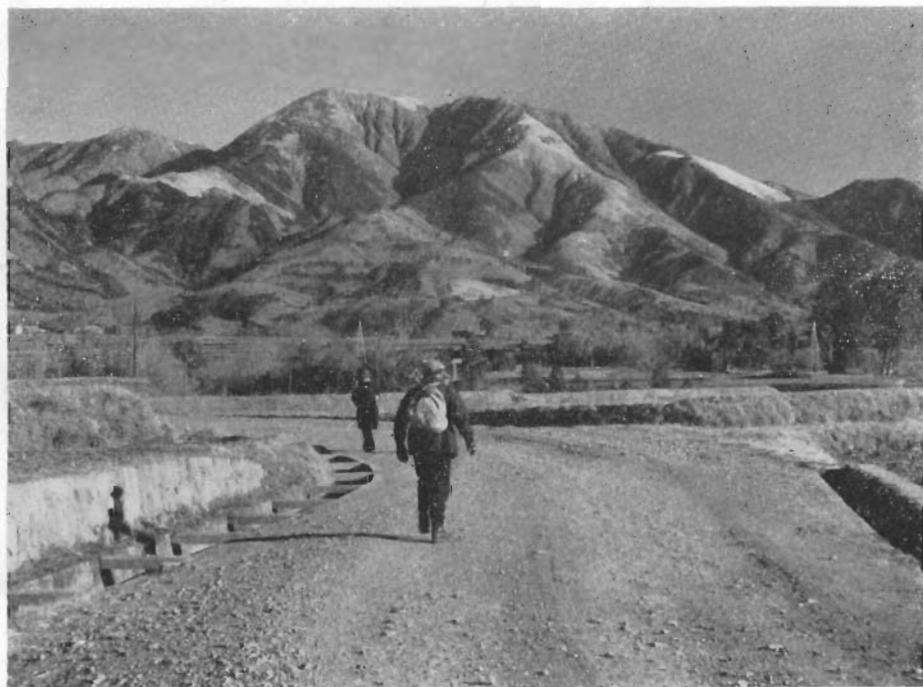
■ 展望



塔ガ岳より箱根、富士山、檜洞丸、蛭ガ岳、丹沢山の展望



塔ガ岳山頂より大山方面を望む（右より三ノ塔、大山、三峰、蛭ガ岳）



大倉口～大倉間（二ノ塔、三ノ塔を望む）



花立附近より塔ガ岳、大山、三ノ塔の展望



花立より塔ガ岳、檜洞丸方面を望む(右より塔ガ岳、丹沢山、不動の峠、蛭ヶ岳)



大倉尾根より塔ガ岳、表尾根の展望



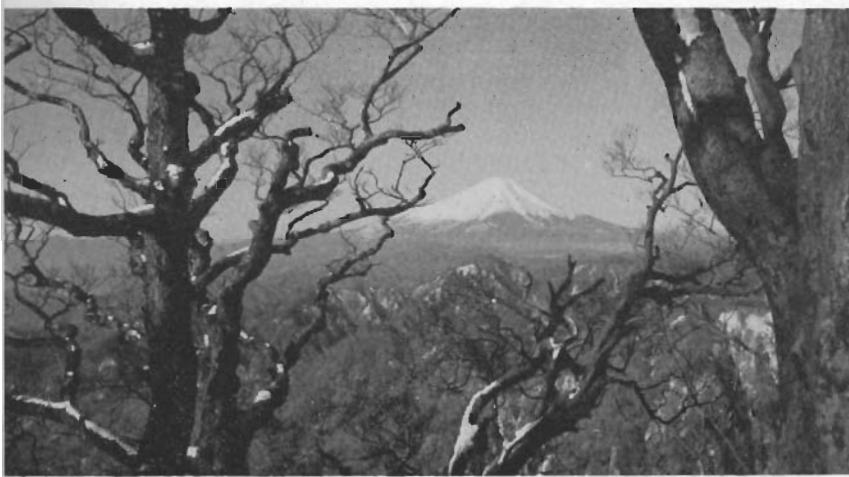
不動の峠附近より富士山、檜洞丸、大室山、蛭ヶ岳の展望



積雪期の主脉



凍結した水無川本谷



丹沢主脉より富士山、山中湖の展望



葛葉川三段の滝



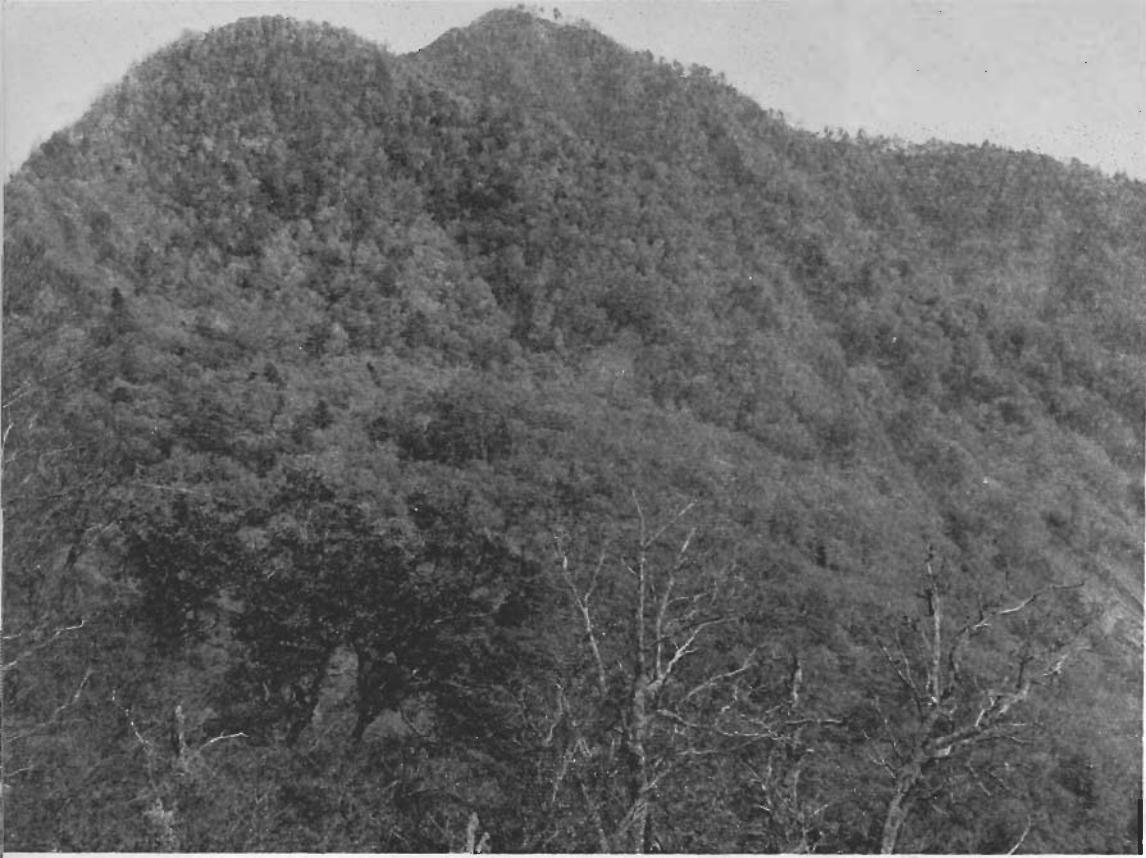
玄倉川サンザ洞



勘七沢



中津川(寄沢)本流の大滝
(通称・イイハシの大滝)



堂平および三峯の西峯と中峯



棚沢の頭附近の林



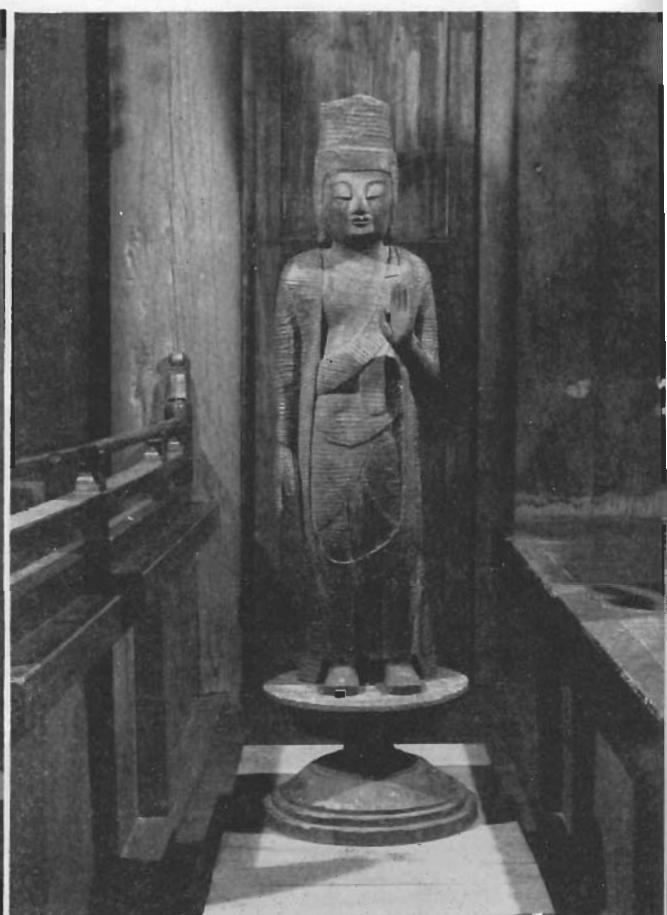
塔ガ岳頂上から大山、表尾根を望む



伊勢沢の頭から塔ガ岳、鍋割、表尾根方面を望む



木造藥師如來坐像（日向薬師）



木造日光菩薩立像（日向薬師）



等沢山の家

序

丹沢大山の地域は、本県の北西部に位置し、標高1,000メートルを越える60数座の山並からなるけわしい山岳地帯で、相模平野から一気に盛り上った地形は、“神奈川県の屋根”と呼ばれ、ほぼ県面積の5分の1に及ぶ広大な地域であります。

本県は、この地域開発のためかって地下資源及び森林資源等につき調査したことがありますが、この地域は、産業開発よりむしろすぐれた自然の保護を図り県民の休養の場、自然探求の場として利用することが最も適当との結論を得たものであります。そこで、昭和35年5月に県立自然公園に指定し、あわせて禁猟区等の指定をし、自然景観の保護育成につとめてきましたものであります。

しかしながら、この地域の傑出した自然景観とその利用の実体は、神奈川県の公園たるにとどまらず、首都圏地域としても休養の場として重要な意義を持つに至り、各界からもその自然が長く保存されるべきであるとの意見を寄せられるにおよび、国定公園の指定を受け広く国民全般に自然の恩恵を寄与することが、最も妥当であると考えたものであります。

幸いにして、昭和37年4月26日国定公園候補地に決定されたので、この機会に保護すべき自然及び文化財等を中心に総合的な学術調査の実施を計画し、財團法人国立公園協会に委託したところ、各分野に御活躍中の諸先生の参加を得、ここに本学術調査報告書を刊行する運びとなつたのであります。

この報告書は、単に国定公園指定のための基本資料にとどまらず、広く自然科学や、この地域に关心を持たれる方々に御利用いただけるものと確信いたしております。

本報告書の作成にあたり、直接御尽力くださいました財團法人国立公園協会及びこの調査を担当された諸先生並びに各種の貴重な資料を御提供くださいました方々に対し厚く謝意を表しますとともに今後の御支援をお願いし、発刊のごあいさつといいたします。

昭和39年2月

神奈川県知事 内山岩太郎

序

大山町の阿夫利神社下社(680m)は、参道の「男坂」の石段が、急なことで知られています。大山は一番東で平野に近いわりあいに、山頂の高度とともに、岩場の特徴を保っています。

大山から西に通なる稜線は、標高1,200~1,500mで、起伏はすくなくなだらかです。丹沢山、蛭ヶ岳などの主峯をはじめ、山頂は丸味をおびてらくに歩くことができます。それにひきかえ渓谷は山崩れが多く、岩場が続いてなかなか近づきにくいところも多くあります。京浜の近くで眺めのよいおだやかな稜線と、意外に険しい渓とをもった山というわけであります。

このような地形は、丹沢に入った人はすぐ気がつきます。しかし丹沢山の歴史を調べてみると、一層おもしろいのです。それは海底火山活動→深成岩貫入・変成・褶曲→隆起→侵食という、地球の造山運動の順序を、完全に示しているからです。日本島弧の形は、だいたい同じ時期に同じ順序で、できあがったものです。それゆえ丹沢山は地質学的には、日本島弧の貴重な小模型であります。私たちは今度の調査で、このように理想的な形でよくまとまつたところは、日本でも外ではおそらく見られないであろう、と思うようになりました。富士山が火山国日本を象徴するならば、丹沢山は島弧日本を代表するといつても、決して過言でないとおもいます。

丹沢山は徳川時代は『御林』で、杉、松、櫻、梅、椎、楓は禁伐であったということです。いまではこれらの原始自然景観を見ることはできないが、山頂のナラ、クルマユリのような北方系から、山麓の広葉樹林まで、また草本の種類も多くみられます。動物ではシカ、カモシカ、イノシシは有名で、また富士山麓に続いているので、鳥類も多くいます。今回は充分な時間を費し、種類の記載ばかりでなく、生態について詳しい調査を行ないました。

私たちはこの報告書が、丹沢山の親切な案内書であると共に、将来ここを研究される人々にとっても、基礎資料としてお役に立つことができるものと期待しています。

昭和39年2月

調査団長 坂本峻雄